

29. 静岡県河津町

対象地域	静岡県河津町 河津桜まつりエリア			
申請主体	河津町			
計画名	「河津桜まつり」渋滞・駐車場問題緩和による、地域一体で創る観光地計画			
観光客データ		令和2年2月	令和6年2月	令和7年2月
	入込観光客数(千人)	907	622	542
	- 国内	-	448	-
	- 訪日外国人旅行者	-	174	-
地域の特徴・観光資源等	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 河津桜発祥の地として、伊豆半島に春の訪れを告げる「河津桜まつり」を楽しむ国内・訪日外国人旅行者でにぎわう河津町、伊豆エリアの観光に大きく寄与している。 ➢ 首都圏からJR踊り子号で120分の立地にあり、伊豆半島の伊豆縦貫自動車道の整備も進みアクセスが良い。 ➢ 河津桜以外でも伊豆半島ジオパークを構成する河津七滝、川端康成氏執筆「伊豆の踊子」ゆかりの地であり、踊子歩道等をE-BIKEで周遊するアクティビティも人気。 			
協議体制	協議の場			
	運営主体：河津町 <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民団体の代表者による協議への参加 ・アンケート調査による住民意見の聴取 ・商工会関係者への意見聴取 			
	参加者			
	行政機関	住民関係者		
	<ul style="list-style-type: none"> ・河津町産業振興課 	<ul style="list-style-type: none"> ・河津町行政連絡委員会 ・河津桜まつり実行委員会 ・河津桜まつり対策協議会 		
	事業者			
	<ul style="list-style-type: none"> ・河津町観光協会 			

エリアマップ















シャトルバス
発着地点
河津バカデル
公園

桜まつり
メイン会場
付近

桜まつり
メイン
駐車場

伊豆急行
河津駅

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 道路渋滞によるマイナス	<ul style="list-style-type: none"> 伊豆循環道、国道135号の交通集中で河津へ向かう道路では時間的計画が困難 河津桜まつり＝渋滞イメージが根付き、近隣や首都圏観光客の減少傾向が顕著 	観光客(乗用車/バス) 観光事業者
2. 中心エリアへの集中	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場空き情報の発信がなく中心部へ駐車場探しの車が集中、状況が悪化している 	観光客・地域住民
3. 桜まつり中心エリア混雑	<ul style="list-style-type: none"> 河津川沿いの桜並木への集中、桜祭りエリア内分散と手荷物軽減による混雑緩和 	観光客

1 道路渋滞



河津桜まつりへ向かう交通渋滞

2 中心エリアへの集中



中心エリアの駐車場状態

3 河津桜まつり中心エリア混雑



河津桜まつり中心部の混雑

3. 背景・要因

主な背景・要因

1. 訪日外国人旅行者の増加
 - ・ 河津桜まつり期間においては令和2年2月まで段階的に訪日外国人旅行者が増加、国内客もこのタイミングがピークとなる
 - ・ 河津へ向かう国道の延伸により訪日外国人旅行者のツアーバス、近年のレンタカー需要等による自動車来訪の増加

2. 中心エリアへの駐車場集中混雑による増加
 - ・ 道路渋滞や桜まつり中心エリアの集中混雑としては、駐車場の空き状況の情報がないため、桜まつり中心エリアに自動車が集まり、混雑している。また、道路渋滞により時間計画が困難であり、観光客へのマイナスイメージとなっている。
 - ・ これまで大きな対策は未着手であったが、令和7年2月に駐車場・交通渋滞への対応として郊外の河津バカデル公園よりシャトルバスを運行、また駐車場においてスムーズな出入りを目的に電子マネー決済を導入、適正な効果を得られていない状況にある。



4. 対策の概要

<p>目指す姿</p>	<p>河津桜まつりを通じて訪れる観光客が河津(伊豆)の魅力を知り、河津桜以外の季節でも伊豆を旅行したくなる風土を造成、国内外の観光客が毎年10%増加、地域住民の満足度80点以上を継続できる観光地へ</p>
<p>KGI</p>	<p>(指標) 交通渋滞の改善を感じる市民の割合と河津桜まつり来場者満足度 現状値：市民23%/来場者47.7% (令和7年2月) 目標値：令和8年2月対比10%UP (令和9年2月)</p>

【協議計画】

- ①令和7年10月
事業計画(案)の説明、住民アンケート(事前)実施説明
- ②令和7年12月
住民アンケート(事前)内容共有、2回目(検証用)の説明、事業の方向性の確認
- ③令和8年2月
事業実施結果(速報値)報告、本年度課題の協議(アンケート反映)
次年度計画(案)の協議

■ 補助事業の実施概要

需要の分散・平準化	
①河津桜まつりにおける駐車場状況の可視化による混雑緩和事業	<p>現在の駐車場は官民が混在しており駐車場の位置や空き状況が不明確で混雑の要因となっている、駐車場情報の共有により適切に空き駐車場への誘導が可能、適切な駐車場情報の可視化で混雑が緩和。また、稼働率UPや収入増加する繋がる。 今までの駐車場における負のイメージを払拭、河津桜まつりへの誘客動機を造成。</p>

調査・分析	
②河津桜まつりにおける人流調査、分析による持続する観光地経営	<p>河津桜まつり中心部駐車場エリア、メイン会場付近に人流が集中している状況で域内分散が必要。期間中GPSデータ等による行動分析と回遊導線の把握による、混雑緩和や河津桜まつり需要の平準化に向けたデータを取得分析、結果を反映した適正な回遊計画の立案。</p>



KGI：交通渋滞の改善を感じる市民の割合と 河津桜まつり来場者満足

- 測定手法：河津町民と来場者へのアンケート調査
- 現状値：市民23%/来場者47.7%（令和7年2月）
- 目標値：令和8年2月対比10%UP（令和9年2月）



河津桜まつりにおける人流調査、分析による持続する観光地経営

KPI：河津桜まつりエリアを3ブロックで計測、人流データによるエリア毎の人流数
 令和7年度：【A】59.6%【B】24.1%【C】16.3%
 令和8年度：【A】60%【B】25%【C】15%

人流を分散化

「河津桜まつり」期間中は、町の中心部及び駅周辺において、駐車場を求める渋滞が発生

河津桜まつりの駐車場状況を可視化、交通混雑緩和事業

KPI：河津桜まつり期間の国道414号・県道14号・町道大堰笹原線調査による渋滞距離（令和7年2月混雑時10km）
 令和7年度：8km
 令和8年度：5km

5-①. 主な取組（詳細）

需要の分散・平準化

補助事業①	河津桜まつりにおける駐車場状況の可視化による混雑緩和事業		
事業目的	駐車場状況の可視化による駐車場難民の減少と混雑緩和		
実施主体	河津町	実施期間	令和7年10月～令和8年2月

【背景・課題】

- 河津桜まつりの一番の課題である駐車場問題、河津桜まつり時期の土日祝やピーク時付近は交通集中による慢性的な渋滞が発生。国内の観光客はこの渋滞により来場が減少傾向にある
- 複雑な駐車場配置により適正に空き駐車場への案内ができていない状況。地域住民の生活を守る為、駐車場混雑による渋滞の軽減が重要。

【事業内容】

駐車場情報の可視化により、適切に空き駐車場へ誘導することで駐車場の混雑を緩和する

【推進ポイント】

- 官民運営が点在する為、駐車場の情報収集と最適な案内導線の把握によるルート整備、民間駐車場運営者の協力
- 路地など交通に支障が出やすい場所の把握、必要な対策の実施
- 河津桜まつりエリア全体へ交通や人流を分散する企画、回遊性向上
- 最適な可視化システムの採用と各種広報連携



駐車場までの渋滞



満車の駐車場

5-①. 成果及び今後に向けて

補助事業①	河津桜まつりにける駐車場状況の可視化による混雑緩和事業
-------	-----------------------------

令和7年度事業の目標 (KPI)

指標名	河津桜まつり期間の国道414号・県道14号・町道大堰笹原線調査による渋滞距離
-----	--

令和7年度に掲げた目標値	▶	事業の成果/目標の検証結果
・5 km		・9.5km (令和8年2月)


成果の詳細

【成果】


- ・ 月次進捗進行管理において、河津町と河津町観光協会（河津桜まつり実行委員会）とが密に連携をとり、実施内容の漏れ防止ができた。
- ・ 交付決定後の速やかな機材手配により、外部要因からの遅延防止ができた。
- ・ AIカメラ設置箇所の効率化で導入台数の削減（13台→6台）が可能となった。
- ・ 多方面（メディア向け、利用者向け等）へのプレスや広報ツールの配布でアクセス数が飛躍的に向上した。
2月7日13,971件→2月15日77,424件
- ・ 駐車場管理者説明会を通じて、来場者へのサービス向上に意識を向けることができた。
- ・ 河津桜まつり会場の混雑緩和事業との整合性も良く、オーバーツーリズム緩和への足掛かりができた。

【課題】

- ・ 民間駐車場への参加拡大が出来ず（50箇所のうち参加25箇所参加率50%）効果が十分ではなかった(周知期間の不足)
- ・ スマートフォン等からWEB上の専用サイト内で混雑状況項目を手動設定するため、機械操作に不慣れな方では慣れるまでに時間を要する(手動操作による課題)
- ・ 次回の河津桜まつりではオンライン、オフラインでの広報活動にてさらなる周知の徹底が必要



周知チラシ



駐車場の状態が可視化されたマップ

令和7年度事業を踏まえた継続課題

1 民間駐車場経営者の巻き込み

- ・ 令和7年度は初年度ということもあり、民間駐車場経営者の参加は約半数に止まった。
- ・ 可視化の取り組みを拡大するためには、民間駐車場経営者の方の協力が不可欠であるため、令和8年度以降も本事業に参加いただける経営者を増やす必要がある。

令和8年度以降の方針

1 駐車場可視化システムの拡充

- ・ カメラを複数台設置し検知精度を上げる
- ・ 民間駐車場経営者の巻き込み

2 駐車場可視化の周知広報

- ・ 駐車場可視化システムに駐車状況の可視化ができる駐車場の増加（民間駐車場経営者の巻き込み）
- ・ 継続した周知広報を実施することで、来場者に駐車場可視化システムを知ってもらい活用いただく

5-②. 主な取組（詳細）

調査・分析

補助事業②	河津桜まつりにおける人流調査、分析による持続する観光地経営		
事業目的	河津桜まつりにおける人流調査、分析による持続する観光地経営		
実施主体	河津町	実施期間	令和7年10月～令和8年2月

【背景・課題】

- ・ コロナ前令和2年2月の河津桜まつり来場者数は約90万人にであるが、その後減少傾向となっている。観光事業者が衰退する中、早期に来場者数の回復を図る必要がある。
- ・ 現状把握や戦略立案ができていない、持続する観光地経営に向けてデータに基づいた戦略戦術が必要であり、河津桜まつりを軸とした通年の誘客に向け、回遊計画を考える必要がある。

【事業内容】

- ・ 期間中GPSデータ等による行動分析と回遊導線の把握による、混雑緩和や河津桜まつり需要の平準化に向けたデータを取得分析
- ・ 持続する観光地経営に向けて、交通混雑緩和事業と連携して河津桜まつりを軸とした、データ分析結果に基づき回遊計画を立案

【推進ポイント】

- ・ 河津桜まつり期における、適正な人流データの取得・分析
- ・ 課題の抽出と改善、地域住民や観光事業者との協議の実施
- ・ データに基づいた可視化と地域意見の融合によるPDCAの推進

【実施場所】（河津桜まつりエリア 3スポット）

- ・ 【Aブロック】 国道135号～来宮橋
- ・ 【Bブロック】 来宮橋～踊り子温泉会館
- ・ 【Cブロック】 踊り子温泉会館～峰大橋エリア



河津桜まつりエリアのA,B,Cのブロック

補助事業② 河津桜まつりにおける人流調査、分析による持続する観光地経営

令和7年度事業の目標 (KPI)

指標名 河津桜まつりエリアを3ブロックで計測、人流データによるエリア毎の人流数

令和7年度に掲げた目標値	事業の成果/目標の検証結果
【A】70%【B】20%【C】10% ※【Aブロック】 国道135号～来宮橋【Bブロック】 来宮橋～踊り子温泉会館 【Cブロック】 踊り子温泉会館～峰大橋エリア	【A】59.6%【B】24.1%【C】16.3% (令和8年2月)

成果の詳細

【成果】

- 「駐車場状況の可視化による駐車場難民の減少と混雑緩和」により駐車場の利用分散の効果と重なり、混雑するAブロックからBブロック、Cブロックへ分散し目標値を達成できた。しかし、Aブロック集中構造は依然として高く、Cブロックのポテンシャルは一定存在するなど回遊の滞留構造が明確化になった。
- ブロック別の人流割合のデータはなく、今までは感覚地判断であったが本事業により 実際に計測すると想定目標値は満たしていたことがわかる。令和7年度により定量的判断が可能となった。
- 河津桜まつり実行委員会が発表する来場者数と近く、オフィシャルの数値の裏付け資料としても有効となった。

【課題】

- 必要な数値を得たことで、誘導施策設計の方向性が具体化。今後も継続的なデータの取得をすることで、課題の見直し及び課題対決のための適正な対策を検討、実施する。

2025年 合計 Aブロック 536,150人 Bブロック 243,750人 Cブロック 155,970人 合計 935,870人	2025年 割合 Aブロック 57.3% Bブロック 26% Cブロック 16.7%
2026年 速報 Aブロック 81,536人 Bブロック 32,886人 Cブロック 22,300人 合計136,722人	2026年割合 Aブロック 59.6% Bブロック 24.1% Cブロック 16.3%

2025/2026の比較
Aブロック + 2.3%
Bブロック ▲1.9%
Cブロック +0.4%

2026来場者

A	59.6%
B	24.1%
C	16.3%

令和7年度事業を踏まえた継続課題

- 1 データの蓄積と共有による町全体での推進**
 - 人流に関する初期値を取得したことにより、課題の抽出、改善を図るため継続して調査し、データの蓄積を図る。
- 2 町全体としての取り組み**
 - データの共有をすることで、関係各所共通認識とすることで、課題解決にむけた混雑緩和、需要平準化、回遊促進に向けた体系的施策の必要性が明確となり、持続可能な観光地経営に向けた新たな政策を立案。

令和8年度以降の方針

- 「データ活用による分散型・持続型観光モデルへの転換」へ
- 1 Cブロック（踊り子温泉会館周辺エリア）への分散化対策**
 - 本事業での結果を河津桜まつり終了後に再検証、必要な対策と実施予算を検討して更なる人流の分散を促進、快適に楽しめる桜まつりを提供していく。
 - 2 駐車場可視化の高度化、及び周知徹底**
 - 継続した周知広報を実施することで、来場者に駐車場可視化システムを知ってもらい活用いただくことで分散化をめざす。また民間駐車場参加率80%を目指す。
 - 3 分散化施策の立案**
 - Aブロック集中率の▲5%、渋滞距離6km、ピーク時間帯来訪率▲10%、平日来訪率+10%など、課題改善のための施策を立案。